

150チーム

(18号：2011年5月5日)

気がつけばもう5月。新緑の若葉がさわやかな空気を運んできます。新年度も始まり1か月が過ぎました。各チームではしっかり新しいスタートが切れていることと思います。

今年度の登録が4月末現在で標記のように150チームとなりました。ご協力、誠にありがとうございました。各地区の内訳は下記のとおりです。

東部地区（男子11チーム、女子26チーム、混合4チーム）

中部地区（男子19チーム、女子32チーム、混合6チーム）

西部地区（男子17チーム、女子30チーム、混合5チーム）

県全体（男子47チーム、女子88チーム、混合15チーム）計150チーム

子どもたちはみんなひとつ学年が上がって新しいチームになり、新しい気持ちでバスケットボールに取り組んでいることでしょう。各チームの指導者のみなさんも、よし今年こそやってやるぞと意気込んでおられることでしょう。

新年度の始まりに当たり、私からの願いを少し書いてみます。

1 子どもたちと指導者で今年度の新しい目標を決めましょう。

とにかく大人だけで目標を決め、それを子どもたちに押し付けがちです。子どもたちからも目指すところを引き出せばより充実した活動になるでしょう。そうすれば練習方法も、試合の仕方も今までと変わってくるのではないのでしょうか。

2 バスケットボールの楽しさを味わわせましょう。

勿論、日々の繰り返し練習は大切です。でも、それも楽しくやりたいものです。そこに指導者としての工夫があります。もうひとつ、バスケの根本的な楽しさを子どもたちと指導者で追求して欲しいと願っています。それはひとつのボールを通じて守ったり攻めたり、攻守の醍醐味です。（このことについては以前にも書きました。）

3 指導者も新しく変身しましょう。

我々は子どもたちに変化を求めます。でも、我々自身の変化はどうでしょうか。これは私自身の反省でもあります。毎年毎年、旧態依然の指導方法ではないのでしょうか。それは、自分自身の体験に基づいていることが多いような気がします。高校時代に鍛えられたその練習方法を同じように繰り返していることが多々ありました。これからの新しいバスケットボールのあり方や子どもたちの健全育成を目指した地域スポーツであることを考えると活動内容も変わっていくのは必然です。我々大人も変わっていきましょう。

最後に余談ですが、男女混成チームのことについてお願いがあります。この混成チームは、男子だけ、女子だけの単独ではチーム編成が困難な場合の救済策として出てきたものです。それなのに女子の部（2部）でいい成績をとるために男子をじょうずに混ぜて勝ち上がろうとするチームが見られるのは残念なことです。本当に男女混成チームしか活動の選択肢がないチームにとっても迷惑なことです。指導者の卓見を望みます。